

新型インフルエンザ意見交換会

ワクチンの接種順位を決める前に



カンガエルーネット管理者

2009.8.27

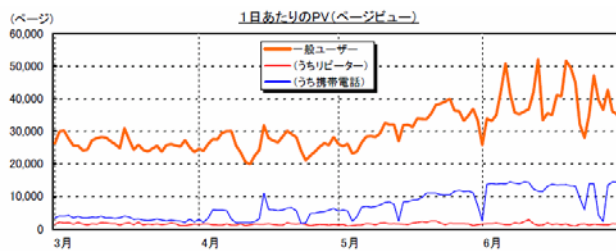
今回は、貴重な機会をいただいたにもかかわらず、残念ながら設定日時にうかがうことができないため、資料での意見提出をさせていただきます。

もし、ご一読いただければ幸いです。

カンガエルーネット 管理者一同

カンガエルーネットの自己紹介

- 予防接種に疑問を持った親達で2003年6月に立ち上げ
- 予防接種のことだけではなく育児にまつわる様々な情報交換の場としてボランティアベースで運営しているサイト
- ページビュー／日は約2万回～5万回



【2009年3月～2009年6月】

ワード	1日あたり 検索回数
1 子供	197.9
2 水疱瘡	189.4
3 副作用	186.4
4 タミフル	162.2
5 日本脳炎	100.0
6 溶連菌	89.6
7 インフルエンザ	87.7
8 予防接種	77.9
9 ポリオ	77.1
10 大人	75.3
11 水いぼ	72.9
12 新ワクチン	67.5
13 薬	66.0
14 下痢	64.7
15 咳	58.9

予防接種検討会資料20090827

2

まず最初に、当サイトの自己紹介をさせていただきます。

当サイトは2003年にオープンし、数名のパパママ管理者が**ボランティアベースで運営**しております。

予防接種や病気・薬などの話題を中心に育児にまつわる情報交換の場として良識ある登録者の投稿をベースにする掲示板がメインの機能です。

その他、「情報源」「副作用」「看病記録」「アンケート」等の機能を活用して、日頃、保健所や小児科の育児相談ではなかなか入手できない体験者の声や知恵を共有しています。これらの生の情報を蓄積することは、我々現役親世代のためだけでなく、将来自分達の子ども達が親になって迷ったときにもとても貴重な情報になると考え、細く長く運営することを目指しています。

一般ユーザーからのページビューは、一日当たり約2万～5万回です。検索によりカンガエルーネットにたどりつかれた方の検索ワードの上位15キーワードを参考に示します。

問題意識を持って集まってきた方々の情報交換の場となっています。

新型インフルエンザに関するアンケート速報

新型インフルエンザの流行に際し、あなたが率直に感じている意見に近いものを下記の選択肢から選んでご回答下さい。

他にコメントがあればどうぞ...



(総回答数: 15)

<新型インフルエンザワクチンを親・子ともに接種したい。>	7
<新型インフルエンザワクチンを親だけ接種したい。>	0
<新型インフルエンザワクチンを子どもだけ接種したい。>	0
<新型インフルエンザワクチンは基礎疾患のある人(子ども含む)を優先するべきと思う。>	10
<新型インフルエンザワクチンは医療従事者を優先するべきと思う。>	5
<世界レベルでの適切な配分を考えてワクチンの買占めなどはしないでほしい。>	12
<マスク騒動と同じように、予防接種をすれば大丈夫といった謝った幻想を与えたり、国民の不安感をかき立てないよう十分配慮してほしい。>	12
<予防接種をできない若しくは接種しない選択をした場合に、接種を強要されないよう十分配慮してほしい。>	12
<適切な選択を行うために、新型インフルエンザワクチンの薬効薬理、安全性等を明確に公表してほしい。>	11
<新型インフルエンザの一般的な経過や感染者の治癒までの道すじ(自宅待機期間等含む)を明確に公表してほしい。>	9

まだアンケートは続行中なのですが、20090826現在の速報をお知らせします。

問題意識の高い方々のうちでも、アンケートにこたえる時間を作ってくださった方々の回答はこちらに示す選択肢をこのように選んでいます。

- ・新型インフルエンザワクチンは基礎疾患のある人(子ども含む)を優先するべきと思う。
- ・世界レベルでの適切な配分を考えてワクチンの買占めなどはしないでほしい。
- ・マスク騒動と同じように、予防接種をすれば大丈夫といった謝った幻想を与えたり、国民の不安感をかき立てないよう十分配慮してほしい。
- ・予防接種をできない若しくは接種しない選択をした場合に、接種を強要されないよう十分配慮してほしい。
- ・適切な選択を行うために、新型インフルエンザワクチンの薬効薬理、安全性等を明確に公表してほしい。
- ・新型インフルエンザの一般的な経過や感染者の治癒までの道すじ(自宅待機期間等含む)を明確に公表してほしい。

新型インフルエンザに関するコメント一覧1/3

- ワクチンに殺到する空気が怖い。ワクチン接種は、任意で基礎疾患のあるかたは優先でよいと思う。新型インフルエンザに罹っても、「治癒する」という情報ももっと必要。
- 私はいままでも予防接種をせずに子育てをしてきたので、新型インフルエンザのワクチンを小学校で集団接種となるのがいちばん嫌です。きっと、接種しない子への差別があると思うから。知りたいことの第一は、最後の質問です。仕事を持っているので、どれくらいの期間休まなくてはいけないのか、どんな経過をたどって回復するのか、そういう具体的な話を知りたい。
- 新聞に、ワクチンは万能薬ではなく、副作用もある事との記事が載っていた。ワクチン接種をしないつもりなので、こういった記事があると心強い。強毒性のものなら接種も考えるが、今回は普段の体調管理に気をつける事で乗り切りたいと思っている。接種をする方、しない方双方にとって正確な情報が何より必要であると考える。
- タミフル副作用被害者のHPで、新型インフル罹患腎臓透析者の死亡は、タミフル成分が腎臓で分解できない故の薬害の可能性があると出ていました。タミフル万能という報道一色ですが、副作用もしっかり調べて欲しいです。



生の声をお届けしたいと思います。

カンガエルーネットユーザーアンケートより③

新型インフルエンザに関するコメント一覧2/3

- 自分に基礎疾患があるので、感染した場合にどのくらいの確率で重症化してしまうのか知りたい。
- ワクチンに対して被害者意識の多い人が集まった掲示板でアンケートをとれば、バイアスがかかるのは当然。これを「市民の声」として取り上げるのが間違っている。
- このコメント一覧が一番大事だと思う。問題意識の高い市民(接種当事者)の声(視点)として、専門家や行政担当者に聞いてもらうべきだと思う。さらに一般的な市民(接種当事者)の声(動向)を拾う行政の努力は、パブリックコメントや世論調査など別の手法でカバーすることができると思う。強毒化したときの選択はまだ違うかもしれないし、同じ数字を見てもワクチンを接種するしない・タミフルを飲む飲まないの判断は個人の価値観によって異なるもの、だからこのコメント一覧の声は大事な視点満載だと思う。



さらに生の声をお届けしたいと思います。

新型インフルエンザに関するコメント一覧3/3

- ワクチンを接種しない選択をした者が変わり者扱いされたり、あるいは「早くワクチン接種して安心したいわよね」というママたちの声が「国中の誰もが思っていること」とされるのが嫌です。すでにそのような雰囲気は、公園や幼稚園で集うママ集団の中であり、同意できない私は発言を控えています。「新型、怖いわよね」そうやって話題を振りまくっているママを、冷めた目で見てしまう自分がいます。
- ワクチンが足りなくなって、不安感が蔓延する前に、ワクチンや抗ウイルス薬ばかりに頼るインフルエンザ対策ではなく、生活を整えて体の基礎免疫力をあげて対抗しようといったことも厚生労働省などから伝えてほしい。



まだ、アンケートは続行中なので、問題意識の高い一般の方々の意見を参考に、我々自身の選択を考えていきたいと思っています。

ゼロリスク症候群を煽っていないか？①

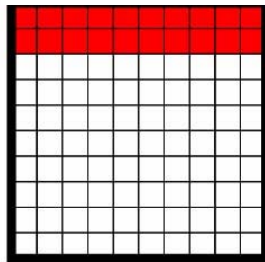
今の日本オリジナルの考え方が必要

もし、江戸時代だったら？

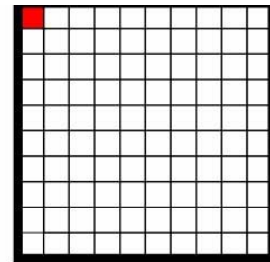
or

もし、日本が途上国のよ
うな衛生・貧困状態だった
ら？

自然罹患による死亡や
重篤な障害の発生確率が
もし20%あったら・・・



予防接種による死亡や
重篤な障害の発生確率が
たとえ1%あったとしても・・・



医療技術、衛生・貧困状態を急に改善するのは難しい場合、まずは
予防接種による対策が有効と判断する人も多いことは頷けるが、今
の日本とはあまりにも状況が違いすぎるので参考にはしづらい。

ここで、なぜ現代の日本において、**ゼロリスク症候群を不必要に煽ることなく適切なリスクコミュニケーションを必要としているか**について、3枚に渡りイメージ図でご理解いただけたらと思います。

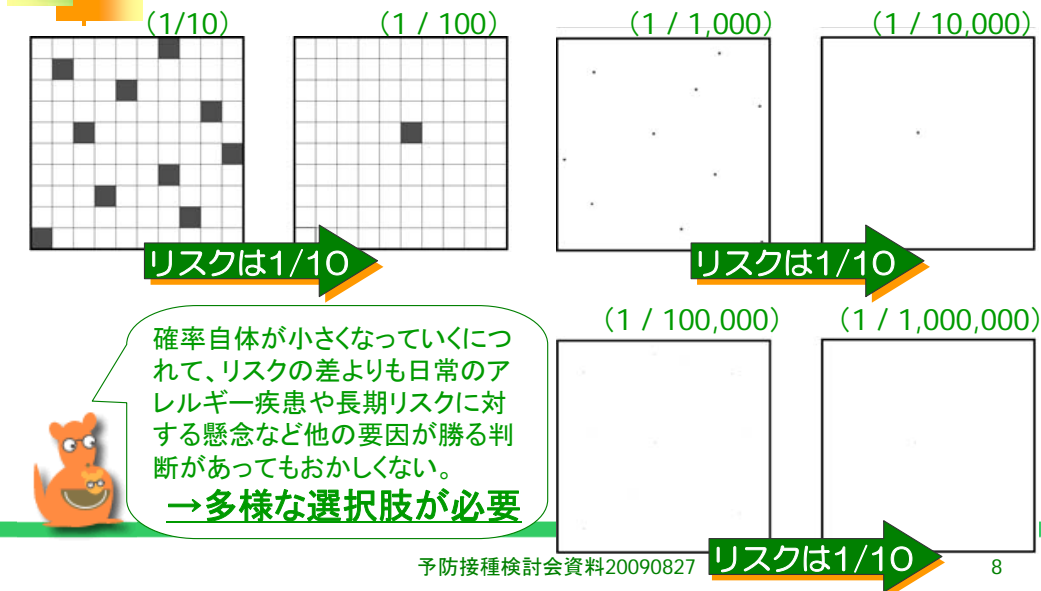
仮に、日本の衛生状態が悪い場合や貧困状態の場合、さらに医療技術も発達していない時代のように、自然罹患によるリスクが二割程度あると仮定します。その社会的な状況を急に改善するのは困難でしょうから、たとえば、予防接種のリスクが1%(1/100)もあったとしても、それでも予防接種が有効な手段だと判断する人が多いでしょう。

これは、ウイルス自体が強毒化し、リスクが高まった時にも同じことが言えるかもしれません。

しかし、**現在の日本は幸いにも、生活水準の向上により栄養状態・衛生状態も良く、医療技術も最先端であります。そして、現時点での新型インフルエンザワクチンの型も季節性インフルエンザと同程度の症状である**とお聞きしています。

ゼロリスク症候群を煽っていないか？②

例えば、同じ1/10のリスクでも、
判断する側の受け取り方はそれぞれ違う



自然感染にも予防接種にもある確率でリスクは存在します。10人に1人から百万人に1人まで、イメージを示してみました。

改行

縦10マスと横10マス計百のマスのマスに10のリスクと1のリスクを比較したもの、

改行

縦100マスと横100マス計1万のマスのマスに10のリスクと1のリスクを比較したもの、

改行

縦1000マスと横1000マス計百万のマスのマスに10のリスクと1のリスクを比較したものを同じ大きさの枠の中に示しました。

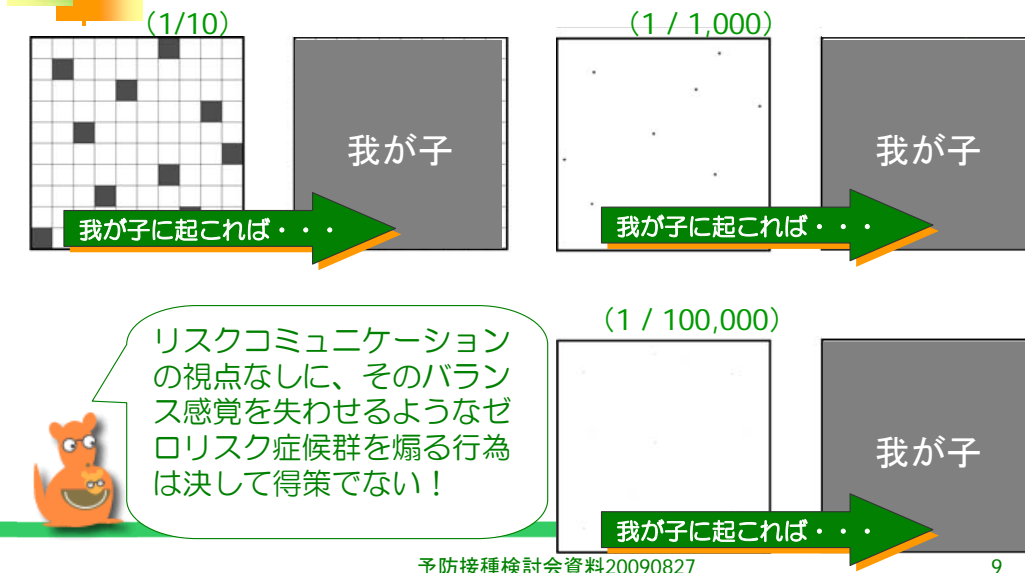
数字だけを見ますと同じ1/10です。数字だけを見てリスクが「何分の一」になる「何倍」になるという数字に翻弄される場合もあります。

また、確率自体が小さくなっていくにつれて、リスクの差よりも日常のアレルギー疾患や長期リスクに対する懸念など他の要因が勝る判断があってもおかしくないのです。

したがって、多様な選択肢が必要になります。

ゼロリスク症候群を煽っていないか？③

例えば、ある一定のリスクでも、それがひとたび我が子に起これば・・・



しかし、たとえ百万分の一のリスクでも目の前の我が子に起こってしまった場合は、親にとってはそれが全てになってしまいます。

ですから、親が腹をくくって納得して判断できるようになるためには、**選択肢のメニューは広く提供されるべき**であり、また判断する側の生活者としてのバランス感覚はとても大切なのだと痛感している次第です。

リスクコミュニケーションの視点なしに、そのバランス感覚を失わせるようなゼロリスク症候群を煽る行為は決して得策でないことがご理解いただけるかと思います。

予防接種を推進される際、不安ばかり煽りますと、ゼロリスク症候群により親が納得して判断することが難しくなるのです。

適切なリスクコミュニケーションがなされる環境が整備されることについても、大変期待しております。

新型インフルエンザワクチンだけに頼るのではなく、
多角的な視点で総合的な対策の提示が重要

- ワクチンで予防すること、タミフルで症状を軽減することは抜本的な対策なのか
- 人間の体が本来備えている病気を治す力を軽視しすぎているのか
- ウイルスと共存するという視点が重要なのではないのか



■ ワクチンで予防すること、タミフルで症状を軽減することは抜本的な対策なのか

→基礎疾患や障がい等があり感染によりリスクが高く、自然罹患のリスクの方が後悔しそうな人、そういった方には有効な対策のひとつかもしれない。しかし、そう考えない人もいる。季節性インフルエンザと同程度のリスクであれば、ワクチン・タミフルを選択しないと考える人も存在する。

■ 人間の体が本来備えている病気を治す力を軽視しすぎているのか

→子どもの看病をしていると、一時的には親子共々辛いですが、一時耐えることができればその素晴らしい回復力を実感することが多い。その素晴らしい回復力を見ていると、そうやって、人類はウイルスへの防御策を体の中で鍛えてきたのではないかと考える人も存在する。

■ ウイルスと共存するという視点が重要なのではないのか

→『重篤な症状の場合だけ検査する場合、ただの夏カゼ程度で回復した人が新型インフルエンザだったかどうかは分からない。』ということが理解されていないと、ウイルスはただけばいいという発想ばかりになってしまう。

→ウイルスはただけばたたくほどさらに強毒化の速度は速まる。タミフル耐性ウイルスの出現を早めたのも、タミフルの乱用によるもの。

→感染・発症の機会の減少に貢献する方策はワクチン以外にも様々あることから、総合的な対策のなかのひとつの選択肢であるという位置づけを周知することによりワクチンに不必要に殺到することを回避する必要があると考える。

親が判断をしやすくするために必要なこと①

■ 多様なニーズに対応:

接種の難しいとされる基礎疾患等があっても希望する人には極力安全に受ける機会を提供すべき。希望しない人には強要しなくていい。

■ 長期的対応策の明示:

今後想定されている強毒化ウイルスに対して現在の新型ワクチンは有効なのか？などを含めて長期的に対応していく必要性が予想される問題に対しての具体的な対策・情報を明示する。

■ 副作用被害への対応の強化:

“疑わしきは、全て救済“の精神をユーザーに近い自治体や医療関係者に浸透するよう努力すべき。また、新型インフルエンザワクチン独自で追跡調査も積極的に強化すべき。(任意接種と同じサーベイランスでは不足)



親が適切に判断するために必要なことを列挙して、本資料のしめくりとさせていただきます。



親が判断をしやすくするために必要なこと②

- **中立で正確な情報を提供：**

判断材料として正確な情報提供が今後一層必要とされるため、具体的な内容(自然罹患状況、副反応発生状況等)をリアルタイムに提供する必要がある。

さらに、ただ、恐怖心や不安を煽るのではなく、一般的な経過・看病の方法、重篤な経過との見分け方など、当事者のニーズにあった適切な情報を周知することにより、軽症者が医療機関に殺到しなくというような配慮が必要。

- **実施側の学習の機会の強化：**

事故防止の観点だけでなく、よりユーザー側に近い実施主体は被接種者への情報の橋渡し役として重要なポジションであることを重視する必要がある。

ご精読ありがとうございました。